

役割分担こぼれ話 (2) = 季報係編 =

高部英明

何となく忙しく毎日を送っていると、仕事はしてても、その積み重ねが危うくなって来る。これは、戦争での兵站線確保に似て、「進め、進め！」で敵地を落としても、兵站を怠るとせっかくの戦果も水泡に帰すと同じです。

仕事をしたら記録に残せ。そして、その上に立って内容の発展を行え。仕事は、マトメることで始めて終わる。ちょっとした無精（努力不足）がいかにか多大の損失を引き起こすとか。

この四月から季報係を命ぜられ、中塚、高部、大道、宮永、小林のメンバーで活動しています。前役員との不十分な引き継ぎの状況で、あわただしく特集号（85年度、年報）を作成しました。皆様の協力を助けられ、IG シリーズ、グループ、マトリックス等の活動・成果報告を活字に残すことが出来ました。

定期的には、たとえば季報（QPR）No. 17 の場合、86年1月～3月期の成果報告で、4月末申し込み×切、5月末原稿×切、6月末発刊と3ヶ月内に完成のスケジュールで進めています。「速報性」を持たせる以上、このスケジュールは守りたいのですが実際には8月7日発刊と、一ヶ月+α遅れてしまいました。一番のネックは、「原稿提出期限を一部の人が守らない」といういつもの理由によります。「厳守期限」です。

季報には 仕事がまとまったから申し込む（自分達にメリットあり）という人だけでなく グループ活動の報告義務あり（マトメねばならぬ）という立場の人も申し込んで下さい。又、 激光 XII 実験シリーズの成果報告を自主的に行っていくという意識を主任の先生方、お忘れなく。

レーザー研の研究季報は、DOE（米エネルギー省）の頭の固い役人だけでなく、世界中の研究者が注目しています。原稿にレフェリーは付きませんが、自分がレフェリーであることを意識しながら、わかりやすく、要領よく、成果・活動をまとめてください。より多くの方が定期的に筆を進めてくださることを願っています。